

# これからも、心を伝える表現者でありたい。

神戸〈ゆうゆうの里〉 青地能里子様(67歳)平成31年入居時一人入居

## 歌の道に入ったきっかけ

高校卒業後の進路を決めるとき、好きな劇団があってそこに行きたかったのですが、医師だった両親から役者は許してもらえませんでした。幼少の頃からピアノを習っていたこともあり、音楽の道なら良いと言われたので音大の音楽教育科に入學しました。卒業後、自分が歌を歌うなんて考えてもいなかったのですが、この時から私は歌を歌って、声で何かを表現す



お母様との思い出の写真

る人生になりました。

## 私の原点

病院のボランティアで歌を歌う機会を頂いた時の話です。牧師さんから「あなたの歌は患者さんの病気が悪くはなっても良くはならない。患者さんの息は弱いんですよ。」と言われました。そういえば、歌の先生からも「歌は声で歌うのではなくて、息で歌うのですよ。良い息をしていないと心に響く歌は歌えないよ。」と言われたことを思い出しました。それ以来、患者さんの息を考えながら歌うようになりました。そうすると、それまで私が歌いだすと途中で帰っていた患者さんが最後まで聴いてくれるようになりました。その上「今日はあるがとう。」と喜んでもらえたのです。今の私の歌は病院で学んだ事が原点になっています。

## 〈ゆうゆうの里〉に導いてくれた母

5年間介護をしていた母を今年の2月に見送りました。母とは



衝突していた時期もありましたが、母が介護を必要とするようになってからはお互いを分かりあえて、私自身も毎日充実して幸せでした。母が「私はあなたが見てくれるから良いけど、あなたは一人やから困るなあ」と常々心配してくれていた事もあり、私のこれから先の人生を考えるようになりました。そんな時、〈ゆうゆうの里〉とご縁があり、見学や体験入居をしました。緑が豊かで、小鳥の声や虫の音に惹かれてここに入居したいと思いました。母には私が入居を決めた事を伝えていなかったのですが、引越しをして10日後に旅立ちました。私がホッとした気持ちですが、母にも伝わって安心してくれたのかなあと感じています。後から聞いたのですが親しい人には「私の介護だけであの子の人生を終わらせたらあかん」と話していたそうです。不思議と母が〈ゆうゆうの里〉に導いてくれたような気がしています。

## 「声」は、私の人生のテーマ

仕事で歌っていた時、お客様をもっと笑顔にしたい、と思うようになりました。ある時、腹話術のマネをしたところ周りのみんなが笑ってくれたので「これだ!」と思いい、腹話術を始めました。アメリカの世界大会にも参加し、今は生きがいの一つになっています。来年も参加する目標を立て、英会話の勉強に通い準備をしています。

神戸〈ゆうゆうの里〉に入ってから、毎日何をしてもワクワクします。創立記念祭に出演することになり、母の介護で遠ざかっていたピアノに再び向かっていきます。広い所で思いつきピアノを弾き歌う幸せを感じています。また「声と健康のサークル」を立ち上げたいと思っています。私は歌って、話して楽しく過ごすひとときが大好きなんです。



腹話術の相棒「アキノキノコさん」と青地様